

## 平成 22 年度（2010 年度）広島市民球場運営協議会 会議要旨

### 1 開催日時

平成 23 年（2011 年）3 月 10 日（木） 14：30～15：30

### 2 開催場所

広島国際会議場会議運営事務室（地下 1 階）

### 3 出席者

#### （1）委員（14 名）

有岡 宏、深山 英樹、高木 一之、加藤 義明、田村 鋭治、山本 治朗、  
石井 健一郎、川瀬 啓子、曾根 幹子、下中 奈美、近藤 敏博、  
部谷 京子、井巻 久一、松田 元

#### （2）広島市

秋葉市長（挨拶後退席）、米神副市長  
片平都市活性化局長、新谷都市活性化局次長（兼）都心再開発部長  
品川市民球場調整担当課長

#### （3）株式会社広島東洋カープ

勝場球場運営本部長

### 4 議題

- （1） 広島市民球場運営協議会の運営等について
- （2） 広島市民球場の運営状況等について
- （3） 平成 22 年度（2010 年度）施設利用実績について
- （4） 2010 年カープ球団の事業実績について
- （5） 命名権について
- （6） その他

### 5 公開・非公開の別

公開

### 6 傍聴者

一般傍聴者 なし

報道関係者 6 社

## 7 会議資料

- (1) 次第
- (2) 配席表
- (3) 委員名簿
- (4) 平成 22 年度（2010 年度）広島市民球場運営協議会資料及びその参考資料

## 8 会議要旨

委員定数 20 名で、出席者 14 名であり、定数の過半数を超えているため、条例施行規則第 8 条第 2 項の規定により、協議会が有効に成立していることを事務局が説明。

### (1) 会長の選任

広島市民球場条例第 7 条第 5 項に基づき、委員の互選により、深山委員が会長に選任された。

### (2) 議事

会長：それでは、これより議題に入ります。まず、議題 1 「広島市民球場運営協議会の運営等について」です。内容について、事務局から説明をお願いします。

事務局：本日は、マツダスタジアム開設後、2 回目の会議ではありますが、改めて本協議会の設置目的等についてご説明します。本協議会は、広島市民球場条例第 21 条に基づき設置された市長の諮問機関であり、球場の運営に関する重要な事項を審議することになっております。協議会の組織や運営に関する事項につきましては、条例の施行規則で定めております。

会長：引き続きまして、議題 2 「広島市民球場の運営状況等について」の説明を事務局からお願いします。

課長：資料の 1 ページをお開きください。「広島市民球場の運営状況について」ご説明いたします。平成 21 年度の指定管理経費等の収支状況についてです。広島市民球場では、施設の利用料金を指定管理者の収入とする利用料金制を採用していきまして、利用料金収入により施設の維持管理費を賄う仕組みとなっています。

指定管理者は、利用料金収入から年度協定で定める維持管理費を除いた額にプロ野球公式戦の年間有料入場者が 100 万人を超えた場合に、超過した入場者に応じて、カープ球団から徴収する歩合料金を加えた額を指定管理納付金として市へ納付しています。

平成 21 年度の実績ですが、収入は 5 億 4,406 万 4 千円で、その内訳はプ

ロ野球・アマチュア野球等の利用料金 4 億 8,635 万 1 千円、プロ野球公式戦の年間有料入場者が 100 万人を超えた場合の歩合料金 5,771 万 3 千円となっています。支出については、合計 5 億 2,435 万 5 千円で、その内訳は、維持管理費が 2 億 2,805 万 7 千円、市への納付金が 2 億 9,629 万 8 千円です。収入と支出との差引は、1,970 万 9 千円となって黒字となっています。

続きまして、資料の 2 ページをお開きください。「寄附金の受入状況について」です。平成 23 年 2 月末現在の寄附金の状況を申し上げますと、たる募金 1 億 2,504 万 7,381 円、地元経済界からの寄附金が 811 社から 16 億 6,591 万 1,324 円、一般寄附として個人からの寄附が 54 件で 1,478 万 3,751 円、法人からの寄附が 37 件で 4,285 万 6,147 円、合計で 18 億 4,859 万 8,603 円となっています。なお、これらの寄附者に対する顕彰のために、今年度、マツダスタジアムの正面玄関に高額寄附者の銘板を設置するとともに、地元経済界のすべての寄附者に対して感謝状の贈呈を行っています。

次に平成 22 年度の球場の「観戦環境の改善について」です。参考資料の 3 ページをご覧ください。まず、スコアボードの改修工事です。これは、国際試合で表示されるボールカウントに合わせて、SBO 表示から BSO 表示に変更したもので、昨シーズンの途中で工事を行い、既に使用しています。

2 点目として、バリアフリー関係で、車椅子スペースの増設です。従来は、車椅子スペースはコンコース回りのみに設けていましたが、多彩なシートで観戦したいとの要望が数多くあることから、パフォーマンス席や正面内野砂かぶり席にも車椅子席を増設して、従来の 121 席から 21 席増設し、142 席となっています。これは今シーズンから使用を開始します。

3 点目として、レフトパーティーフロアの改修です。これは、レフトパーティーフロアの床及び天井を改修するとともに、観戦用のモニターを設置して、観戦環境の向上を図るものです。これも今シーズンから使用を開始します。

4 点目として、バックスクリーン裏のパーゴラへの竹簾の設置です。昨シーズンからパーゴラを設置し、あさがおやゴーヤを這わしていますが、パーゴラの内側約 40 メートルに竹簾を設置して、これらの緑のカーテンと合わせて一層の清涼感を創出するように考えています。この竹は広島県竹原市のものを使用して整備をすることになっています。

これらの改修につきましては、カープ球団が整備を行います。

会長：ただいまの説明につきまして、ご質問・ご意見があればお願いします。

ないようでしたら、引き続き、議題の 3 から議題 6 まで事務局から一括して説明をお願いします。なお、議題 4 の「カープ球団の事業実績について」は、

カープ球団の勝場本部長から説明をお願いします。

事務局：「平成 22 年度の施設の利用実績」についてです。まず、施設の利用日数は、公式戦・オープン戦・ウェスタンを含むプロ野球興行が 83 日、これは、2010 年 3 月に開催したオープン戦・公式戦を含んでいます。高校野球などアマチュア野球が 61 日、イベントやCM撮影などが 7 日、自由にコンコースを散策できるコンコース開放が 3 月の見込みも含めて 80 日、プロ野球・アマチュア野球の雨天中止日が 21 日です。合計で 252 日の利用となっています。

次に資料の 3 ページをお開きください。「カープ球団の自主事業等について」です。コンコース開放が 2 月末時点での実績ですが、73 日で来場者数 23,477 人です。スタジアムツアーが 77 日で参加者数は 7,389 人となっています。また、今年度から社会見学の一環として、広島市立の幼稚園・小学校・中学校の児童や生徒等を対象に無料のスタジアムツアーを新たに実施していただいております、これが 19 日の延べ 2,854 人の参加がありました。以上、合計で 169 日、33,720 人の来場・参加があり、こうした取組を通じてカープ球団には地域交流の促進に大きく貢献していただいております。

続きまして、「プロ野球興行時の来場者動向」です。参考資料の 5 ページをお開きください。今年度プロ野球興行時に、各球団の試合ごとに 1 回、合計 5 回の来場者に対するアンケートを実施しています。各調査とも 1,500 件以上の有効回収数を確保しています。また、昨年度、同様の調査を 3 回実施しており、今回の調査では昨年度調査との比較も行っています。

まず、性別では、各試合での大きな違いはなく、男性が 6 割、女性が 4 割となっており、昨年度調査とも大きな違いは見られません。

次に 6 ページをお開きください。年代については、いずれの調査も、30 歳・40 歳代が最も多くなっています。対戦カード別にみますと、第 2 回目の調査の巨人戦では、60 歳代以上の割合が高くなっていますが、全体では、昨年度調査との大きな違いは見られません。

次に 7 ページをお開きください。来場者の自宅住所地ですが、5 回目の調査の阪神戦では、広島県外の割合が非常に高くなっています。昨年度調査との比較では、広島市内の割合が減少しており、広島県内・広島県外からの割合が増加していることから、より広域的な集客ができていると考えられます。

次に、8 ページをお開きください。野球観戦後の交通手段です。各調査とも、JR・自家用車が他の交通手段を大きく上回っています。昨年度調査と比較しても、大きな変化はありません。

次に 9 ページをお開きください。野球観戦後の予定ですが、各調査とも帰宅層が全体の約 8 割を占めています。5 回目のデーゲーム（阪神戦）の調査

については、買い物・娯楽・観光の回遊層の割合が高くなっています。昨年度調査と比較すると、回遊層の割合が減少し、帰宅層の割合が高くなっています。

次に10ページをお開きください。マツダスタジアムの評価についてです。球場の楽しさ、職員・スタッフの接客態度や案内、球場内の清潔度、トイレや売店など球場内の施設の位置のわかりやすさ、球場の使い勝手や安全性、これらの項目について、満足度を聞いていますが、昨年度調査と比較すると、すべての項目で、満足・やや満足の項目が増加し、昨年度調査では7割程度だった満足の割合が、今年度は約8割程度まで増加しており、球場に対して高い評価をいただいていると考えています。

次の11ページには自由意見を掲載しています。以上が議題3までの説明です。

カープ：それでは、「2010年カープ球団の事業実績」についてご説明します。資料の3ページをお開きください。プロ野球来場者数につきましては、マツダスタジアム2年目となり、初年度と比べれば減少したものの、球団史上2位になるお客様にご来場いただきました。

経営状況につきましては、入場者数の減少を主因として、売上高が98億4,714万8千円と前期比16パーセントの減収となる見込みです。地域貢献活動につきましては、詳細を参考資料4の「カープ球団の地域貢献活動」にまとめています。今後とも地域と地域、世代と世代を結ぶ活動に積極的に取り組んで参りたいと思っています。

事務局：続きまして、資料の4ページをお開きください。「命名権について」です。まず、契約概要ですが、命名権取得者はマツダ株式会社で、命名権名称は「MAZDA Zoom-Zoomスタジアム広島」です。命名権名称の使用期間は、平成21年4月から5年間です。契約金額は消費税込で年間3億1,500万円です。命名権取得企業であるマツダ株式会社様には、命名権料だけではなく、球場を核として様々な社会貢献活動に積極的に取り組んでいただいています。

平成22年度は、1点目は、マツダスタジアムのナイター照明の電力分のグリーン電力購入です。

2点目は、球場来場者100万人ごとの福祉車両の贈呈です。今年度は累計200万人と300万人を達成しましたので、2台の福祉車両を贈呈していただいております。

3点目は、球場周辺の清掃美化活動です。役員・社員の方とそのご家族に

より合計8回、延べ2,017人が参加されて、球場周辺の清掃活動を行っていただいております。

4点目は、球場コンコースへのヘリテージコーナーの設置です。カープ球団、マツダ株式会社、広島市の歴史などを展示するコーナーを設置していただいております。

5点目は球場の情報発信です。マツダ株式会社のグローバルオフィシャルWEBサイトなど、各種媒体を通じて球場の情報発信をしていただいております。なお、来年度の予定ですが、今年度の同様の事業を実施される予定となっています。

最後に資料の5ページをお開きください。マツダスタジアムは昨年度受賞した国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰に続きまして、今年度数々の賞を受賞いたしました。社団法人照明学会の照明普及賞、社団法人全日本建設技術協会の全建賞、社団法人日本建築家協会の日本建築家協会賞をそれぞれ受賞しています。

会長:ありがとうございました。ただいま議題3から議題6までご説明しましたが、ご質問・ご意見はありませんか。

委員:野球観戦後の交通手段ですが、去年も今年も自家用車が多いように思いますが、駐車場の確保や違法駐車・混雑解消の問題はどうなっているのでしょうか。

事務局:球場の駐車場としては、現在、球場周辺に2地区に分けて計400台分を用意しています。球場にご来場頂くには、大洲街道のみという状況もあり、広島駅に近いという立地条件もありますので、できるだけ公共交通機関でご来場頂くようにPRをしています。

しかしながら、周辺にコインパーキングなどの駐車場も増えてきており、球場周辺だけではなく、広島駅の屋上の駐車場へ駐車されるなど、工夫して来場されているように思います。ただ、渋滞という面では、通常の交通の流れと比べますと、渋滞はしていますが、大きな混乱が起こるという状況にはなっていません。概ね30分後から1時間後には、平常の流れになっています。

委員:球団自主事業等の社会見学についてですが、広島市立の幼稚園・小学校・中学校の児童・生徒を対象にした無料のスタジアムツアーが19日間実施されたとありますが、市立以外の生徒を対象に無料のスタジアムツアーは行われ

ていないのでしょうか。また、今後、行う予定はないのでしょうか。

委員：市の教育委員会と協力して、去年の途中から実施しました。今年度はもう少し幅広く実施できればと思います。

委員：是非、市立だけではなく、全ての幼稚園・小中学校に広めていただければと思います。大変いいことですので、小さいときからスタジアムに馴染んで頂きたいと思います。

委員：日程が限られ、遠方だと交通費の問題もありますが、例えば県の教育委員会にお願いをするという形で実現する方法は考えられます。

委員：県も去年は子育て支援ということで、「パパ・ママ応援！みんなで子育て！カーブ観戦でリフレッシュ！」というイベントを行っていただいています。

委員：6千人もの方に来場していただきました。

委員：施設の利用日数で、アマチュア利用が61日というのは、意外に多く、地域のスポーツ振興に随分貢献していると感じました。利用の申し込み状況はどうなっているのでしょうか。

事務局：新しい球場ということもあって、非常に人気がありますが、使える日は限られています。一般の申込みは、抽選により決定しています。

会長：他に何かありますか。

委員：まず、お礼申し上げます。ピンクリボンキャンペーンにご協力いただいております。おかげさまで大変定着しております。

参考資料3の帰宅層が多いことにつきまして、ナイターが多いということもあると思いますが、回遊型があまりいませんよね。球場にお見えになる前に回遊されるのか。回遊型が本当に必要であるということであるならば、どのようにお考えかお聞かせください。私どもは様々なキャンペーンを行いつつ、球場の周辺で市民の方たちの活動が盛んになればと思っておりますのでお尋ねします。

事務局：ただいまのご質問についてですが、マツダスタジアムの周辺にヤード跡地と

いって大きな空地が残っております。これにつきましては、今年の1月14日に事業者である三井不動産と概略基本計画の協議が整いまして、これから動いていく段階に来ています。当初は、球場を挟んで西側、東側の両地区を一体的に開発するという計画でしたが、非常に厳しい経済情勢もあり、段階的に整備を行っていくことになりました。この秋に、三井不動産から基本計画を提出していただいて、これを市が承認し、事業化を図っていくということです。来年の12月頃に東側の地区はグランドオープンの予定です。広島駅周辺地区は、「新都心成長点」に位置付けられており、球場周辺だけでなく、駅前のBブロック、Cブロックあるいは若草地区の開発、こうした事業も合わせて進めているという状況です。

会長：他にありませんか。

委員：あんなに楽しい球場でございますから、それに匹敵するような魅力あるものができることを切望しています。

委員：この回遊層というのは、勝敗に関わりなく、このような傾向なのでしょうか。そういう分析をしておられるのでしょうか。

事務局：そこまで、細かくは分析しておりません。

委員：今、三井不動産の話ができましたが、集客力のあるものができること、車で移動することが難しくなるのではないのでしょうか。ですから、公共交通機関の結節点として、駅前を含めていろんなことがうまく機能できないのかと思います。施設ばかりできて車が動けなくなってしまうのではないかという気がします。今、広島駅の北口地区もいろんな構想が出て来ていますよね。自由通路というのは、人間が歩くというのはもちろんですが、車とか、公共交通機関とか、何か一体的にすぐに大きく片付く問題ではないですが、グラウンドデザインでも描いていただければと思うのですが。

事務局：只今のご指摘の点は、非常に重要なことでして、マツダスタジアムが完成し、駅前のBブロック、Cブロックの再開発事業が動き出します。それから、新幹線口につきましては、若草町の市街地再開発事業ですが、昨年8月に全部のビルも完成し、残されたシェラトンホテルもこの3月28日にグランドオープンします。それと中国地方財務局、JR西日本が所有している二葉の里地区については、UR都市再生機構で区画整理事業の整備が進められており、



平成 25 年度末には基盤整備が整います。また、その土地の一部は、公募により事業者を募集もしていますから、徐々に二葉の里地区も施設整備がされまして、駅周辺一帯が動き出しています。

その中で、ご指摘の交通の関係ですが、やはり、公共交通機関の一大拠点である JR を中心に、回遊性を確保するということが重要だと考えています。先ほど、お話にもありましたが、南北自由通路、新幹線口にはペDESTリアンデッキで若草の再開発ビルとか、二葉の里地区にも繋げようという計画を既にしていますし、南側の広島駅からマツダスタジアムにかけても、現在の交通規制を行いながらの歩行者空間の確保というのは限界がありますので、ペDESTリアンデッキでマツダスタジアムまで繋げようということも広島市の方で進めています。

現在、路面電車が猿猴橋町側を荒神橋から回っていますが、中期的には、直接、駅前大橋を通過して、南口に繋げる方向で、交通事業者を交えて検討をしています。これはすぐには進みませんが、南口広場の整備や新幹線口広場の整備も併せて行い、全体の交通環境の改善をやらないといけないと思っています。これは、すぐに一度にできませんので、それぞれの検討状況、また、現在、自由通路は着手をすることにしていきますので、これができれば駅周辺の交通環境が改善するのではないかと考えていますし、今後、マツダスタジアムでのプロ野球の開催に合わせて、直近の交通の状況を見ながらそれに応じ、適切に対応したいと考えています。

委員：車による来場については、交通渋滞や地域の方々へのご迷惑を考えると基本的には、おっしゃっているとおりだと思いますが、「マツダスタジアムへ行くのに、自家用車はダメよ」と言いすぎるのはいかがなものでしょうか。来場されるお客さんの立場も考えてバランスをうまくとる必要があると思います。

委員：私が一番懸念したのは、駐車場がなくて、迷惑をかけているのではないかと思っただけです。よく聞いてみると 100 円パーキングなどがかなりできているようです。

委員：ただ、試合の日は 100 円ではないのです。旧市民球場のときも球場周辺に相当数の立体駐車場ができたという事情もあります。ある程度、皆さん商売になると思ったら、駐車場を作られるというケースがあると思うので、この資料の自家用車での来場は球場に備えてある駐車場のキャパとはちょっと違うのではないかと思います。

委員：アンケートの野球観戦後の予定というのは非常におもしろい結果だと思いますが、観戦前にも、飲食とか街の賑わいはきっとあると思います。ですから、今度、アンケートを取る場合は、球場に早くきて、球場そのものを楽しんでいるのか、周辺でショッピングをして楽しんでいるのか、そんな内容をアンケートの盛り込めばスタジアムの効果というものがわかるのではないのでしょうか。

事務局：マツダスタジアムはカープ球団のフランチャイズ球場として市民・県民や、経済界からご支援をいただいて建設しました。只今、ご指摘のあった、駅周辺の回遊性は、賑わいづくりということが都市の活性化のために必要なもので、新年度のアンケートでは、そういう分析もしたいと思っています。ありがとうございます。

会長：その他何かありますか。

委員：コンコースの開放が73日ということですが、県外から来られた方は、宮島を見て、原爆ドーム、資料館を見てお帰りになる。最近よく聞くのが、スタジアムに行ってみたいということと言われるわけですね。つまり、観光資源の1つになりつつあると思っています。その時に、球場の周囲は見ることはできるのですが、やはり、スタジアムの良さというのは、上まで上がって見て、あそこから見ることに魅力があると思います。非常に素晴らしい球場ですので、セキュリティの問題もあると思うのですが、中が見える途中まででも、入ってはいけないのかなと思うのですが、このことについてはどうでしょうか。

委員：やろうと思えばできると思いますが、まず、コストの問題がでできます。できたら、芝が見える位置まで開放できればと思うのですが、まずは、コストや保安面のことなどを考慮しながら検討していきたいと思います。

会長：ありがとうございます。いろいろとご意見をお伺いしましたが、予定の時間も迫ってまいりましたので、ここで、松田オーナーにですね、今シーズンに向けた抱負を一言お伺いしたいと思います。

委員：今年のカープについては、自分の中では自信と希望を持っています。2つの要因があって、1つは、統一球って飛距離が出ないボールです。そうするとホームランで点を取ることが難しくなるのではないのかと思っており、バントの練習もさせています。これはカープにとっては、この要因が良い方向に行けば、大きな自信に繋がると思います。

もう一つの要因は、内的なものですが、新戦力を結構取っています。去年のドラフトで大学、社会人からピッチャーを探りました。その中で1軍枠に入りそうな選手が3名いますが、これらがどの程度活躍できるか。キャンプで投げる球を見ますと、素晴らしいものを持っています。希望をしっかりと持っていたら、今シーズンは楽しくなると思います。

委員：松田オーナーにお聞きしたいのですが、去年の運営協議会で、今年の入場者数155万人と予想されてほぼ当たったのですが、今年はどうでしょうか。

委員：私どもは、入場者数150万人を最低線として、これをクリアするようにやっていますが、当然、成績等によっても変わってきます。ただ、去年は、成績が今一つだったにも関わらず160万人近くの方に来ていただけました。

会長：松田オーナーありがとうございました。

今日、いろいろご意見賜りましたが、今後の球場運営に活かして参りたいと思います。本日は、どうもありがとうございました。

以上。

議事録署名者

深山 英樹